

***親子で納得

ニュースな経済学

経済ジャーナリスト・内田裕子

「エコカー減税」で車が売れている

自動車メーカーのテレビコマーシャルでさかんに宣伝している「エコカー減税」。いま、エコカーを売ると税金がたくさん差し引かれます。これは政府が「不況をなんとかしよう」と行ったものですが、その効果で自動車売れています。8月の新車販売台数は13か月ぶりに去年の同じ月を上回ると予想されています。特にトヨタの「プリウス」、ホンダの「インサイト」などの「ハイブリッドカー」については、税金すべてが免除されるということもあって、たくさんの予約が入っています。それもそのはず、ふだん、買うときよりも税金が15万円ほど少なくなり、さらに、13年以上乗った古い車を廃車にしてハイブリッド車に買いかえると25万円の補助金も出るのです。人によって

は合計40万円も出費をおさえられるのですから、「いまが買いどき」と思いますよね。工場ではつくるのが追いつかず、例えば、いま、プリウスを予約すると届くのが来年の4月になるそうですから、人気のほどがうかがえます。

さて、いま、エコカーというと「ハイブリッドカー」をイメージする人が多いと思います。「ハイブリッド」というのは「雑種」という意味で、異質のものを組み合わせたものです。ここでは「電気」と「ガソリン」を指します。「ハイブリッドカー」は2種類の燃料を使い分けて、車を動かしているのです。でも、ガソリンを使うと、地球温暖化につながる二酸化炭素が出てしまいます。目指すエコカーは、二酸化炭素を一切出さない「電気自動車」でしょう。でも、そのためには「ガソリンスタンド」にかわる、「充電スタンド」が必要になってきます。それにはまだ時間がかかりそうなので、当分の間、エコカーの主演は「ハイブリッドカー」のままでしょう。いずれは「電気自

動車」がメインになっていくと考えられていますが、ここで一つ問題があります。三菱自動車の電気自動車「アイ・ミーブ」は、深夜の電気料金だと150円でフル充電されて160キロも走るそうです。その程度しかもうからなかったら、「充電スタンド」はとても商売になりません。

長時間走れる電池を開発するのか、充電スタンドを公共の設備にするのか、電気自動車が街の中を安心して走れるようになるには、まだ課題があるのです。



たくさん予約が入っているプリウス。トヨタ自動車提供

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-hrj.co.jp/uchida/>